

国際医療福祉大学 市川病院 糖尿病教育研修カリキュラム
(2018年4月1日 認定教育施設 II 認定 認定番号 200048)

1. 当院の特徴

当院の前身は1939年に結核の化学療法研究を目的に設立された化学療法研究所病院である。現在も45床の結核病棟を備え、千葉県における結核治療の中心を担っている。加えて内科系9、外科系6の診療科や人工透析センター、デイケアセンターなど8つの専門外来、センターを備え地域の中核病院として機能している。

2016年1年間の入院患者数は内科系1030名、外科系999名、それぞれ糖尿病合併患者数は128名(12.4%)、50名(5%)であった。結核病棟には164名の入院があり78名(47.6%)に糖尿病を合併していた。

2017年9月より国際医療福祉大学 市川病院と名称が変更となった。

国際医療福祉大学は1995年に栃木県大田原市に開学した日本初の医療福祉の総合大学であり、2017年4月に千葉県成田市に医学部の開学に伴い、栃木県の国際医療福祉大学病院、同塩谷病院、東京都の同三田病院、静岡県の同熱海病院に加え、当院を含めた5つの附属病院が連携して日々、診療・教育・研究を推進している。

2. 糖尿病教育研修の目標

本カリキュラムを通じて、内科全般の知識に加えて、糖尿病の専門性を有して診療や教育、患者への生活習慣の指導ができる医師の育成をめざす。本プログラムの最終目標は、日本糖尿病学会専門医制度規則第1章第1条にある“糖尿病学の進歩に呼応して糖尿病臨床の健全な発展普及を促し、有能な糖尿病臨床医の養成を図り、国民の健康増進に貢献すること”である。

3. 各年次における目標

当院における教育研修プログラムは、既に糖尿病教育施設(I)である国際医療福祉大学病院、同三田病院と連携して行い、当院では経験できない症例(例:小児の糖尿病、糖尿病合併妊娠など)は連携施設で経験できるよう配慮する。眼合併症については近隣の開業専門医と連携し、さらに手術症例に関しては、連携施設である千葉大学医学部附属病院 眼科での見学を通じて網膜症の診断・治療についてのエッセンスを学ぶ。当院は各診療科の垣根が低く、結核病棟、療養型病棟、リハビリテーション病棟も有しており、多診療科との連携やコメディカルとの多職種連携を十分に学ぶことが可能である。

本教育研修プログラムを開始するにあたり、日本内科学会、日本糖尿病学会に入会し、以下のごとく年次毎に目標を定め研修プログラムを遂行する。

【研修1年次】

病棟にて入院患者を上級医・研修指導医とともに受け持つ。1年目の目標は糖尿病の診療力、知識をしっかりと身につけることにある。

(症例数の目標：入院症例 月平均5症例程度、年間 70症例前後)

1. 病歴、家族歴の聴取や患者とのコミュニケーションの取り方を学ぶ
2. 診察手技を研修指導医に加えて、循環器内科、呼吸器内科、神経内科の指導医から学ぶ
3. 検査計画や合併症についての種々の検査や、その評価について正しい知識を身につける。頸動脈エコー、PWV、ABIなどの検査は自ら体験し実践する
4. 糖尿病の診断、病型、合併症診断に必要な知識と技術を習得する。基本的な知識に関しては、1年をかけて「糖尿病専門医研修ガイドブック」を通読する
5. カンファレスにおいて、自身で担当した症例以外の症例に関しても知識を深める
6. 多職種連携に関して学ぶ
7. 1年次の後半からは研修指導医の外来につき、外来診察を学ぶ

【研修2年次】

2年次からは外来研修も開始する。2年次は上級医・研修指導医に適宜相談しながらも、必要な検査を立案・実践し一人で診療可能なレベルへの達成をめざす。

(症例数の目標：入院 月10症例程度、年間120症例程度、外来 月50症例程度、年間300症例程度)

1. 病棟では1年次研修医の直接指導を行い、自ら1年次で得た知識、手技を再確認するとともに、教える立場を経験する
2. 病棟で担当した入院患者のフォローアップ外来や新患者を、適宜、上級医・研修指導医に指導を受けつつ担当する
3. 上級医・研修指導医とともに他科からの依頼患者の血糖管理を行う
(当院では整形外科、外科からの周術期管理の依頼が多く、2年目の前半は特に周術期管理に関して学ぶ。50症例以上)
4. 透析室にて透析の基本的知識を学ぶ(2年目後半、当院における糖尿病合併透析症例20名前後、また透析導入患者5名前後)
5. 血糖測定、インスリン注射手技、食事療法、運動療法の患者指導に関して看護師(糖尿病療養指導士)、管理栄養士、理学療法士と協力して行い、個別指導を学ぶ。また、月に一度行っている糖尿病教室の講師として講演し、集団教育に関しても学ぶ
6. 院内の整形外科医、血管外科医との連携で糖尿病足壊疽、抹消動脈疾患などに関して学ぶ
7. 臍性糖尿病、1型糖尿病など、より複雑な治療を要する患者を担当する。
特に1型糖尿病に関しては10症例の研修を必要とされており、当院で足りない症

例数に関しては、栃木県の国際医療福祉大学病院や東京都の同三田病院において研修を行う。

また、千葉県1型糖尿病患者の会「つぼみの会」のサマーキャンプに参加する

8. 各種ガイドラインの根拠となっている臨床研究文献の背景を理解し、読解できるようリテラシーの習得に向けて、抄読会を開始する
9. 自ら経験した糖尿病症例に関して学会報告を行う

【研修3年次】

3年次は主治医として外来・入院患者を受け持ちながら各種検査を行うとともに、初期臨床研修医の上級医として指導も行なう。

(症例数の目標：入院 月10名程度、年間120症例程度、外来 月80症例程度、年間400症例前後)

1. 経験症例をさらに増やし、知識を深める
※1型糖尿病患者（妊娠を含める）10名以上、妊娠糖尿病2型（10名以上）、2年目の後半、3年目の前半にグループ病院である栃木県の国際医療福祉大学病院（栗田卓也教授）や東京都の同三田病院（小山一憲教授）にてそれぞれ3か月間のローテーションを予定しており、市川病院で足りない症例を補完する
2. 1、2年次研修医の直接指導し、指導方法を学ぶ
3. コメディカル教育の中心となって勉強会を開催し、また、さまざまな学会、勉強会に積極的に参加し研鑽する
4. 学会の定める研修カリキュラムを適切に達成できるよう研修指導医と相談し、不足する研修内容は、連携施設、学会、各種学習会などを通じて習得できるよう研鑽に励む
5. 臨床現場における問題点、改善すべき点を科学的に捉え学会、論文等に発表する